

第9回 学術・教育・研究委員会の概要 (学術部会常設委員会)

I 日 時 平成22年10月28日(木) 14:00～17:00

II 場 所 日本獣医師会・会議室

III 出席者

【委員長】 酒井 健夫 日本獣医師会理事(学術・教育・研究担当)、
学術部会長

【副委員長】 内藤 善久 岩手県獣医師会副会長

【委 員】 大橋 文人 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授

加茂前秀夫 東京農工大学大学院共生科学技術研究院教授

熊谷 進 東京大学 食の安全研究センター特任教授

中尾 敏彦 元山口大学農学部教授

中舘 正吉 北海道獣医師会専務理事

中山 裕之 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

広瀬 修 千葉県獣医師会常務理事

山田 英一 新潟県獣医師会副会長

【本 会】 中川 秀樹(副会長)、大森 伸男(専務理事) ほか

IV 議 事

- 1 第8回学術・教育・研究委員会の協議結果(報告)
- 2 今後における獣医学術学会事業等の運営について(説明・協議)

V 会議概要

開会にあたり、中川副会長から、「日本獣医師会は現在、公益社団法人の認定を目指して組織・事業の見直し作業を進めており、この中で今後の学会全体の運営や地区学会のあり方等についても検討を行っているところである。今後、学会関係者や地区学会の開催運営を担当する地方獣医師会に対して、これら変更点等についてさらに理解を深めてもらうための説明等が必要であり、これまでも逐次、学会理事会・定期総会において説明の上、理解を求めてきたが、改めて平成23年2月の学会理事会・定期総会に学会事業等の運営見直しの件について最終確認を行い、さらに日本獣医師会の理事会に諮り新規程の制定等の手続きを行うこととなるので、委員各位には一層のご理解とご協力をお願いしたい。」旨の挨拶が行われた。

1 第8回学術・教育・研究委員会の協議結果(報告)

事務局から、前回委員会の概要については各委員に送付し、特に意見等がなかったことが報告され、異議なく了承された。

2 今後における獣医学術学会事業等の運営について（説明・協議）

(1) 事務局から、①学会等の組織・事業運営見直し検討の経過と今後の対応、②日本獣医師会における「学会」の位置づけ、及び今後の「学会」と「地区学会」等の組織・事業（案）について、これまでの検討を経てとりまとめた資料に基づき説明が行われたのち、次のとおり意見交換等が行われた。

ア 中川副会長から、「日本獣医師会学会の事業内容に本会の生涯研修事業の支援を行うことを記載してはどうか。」との提案に対して、大森専務理事から、「学会事業は本会の生涯研修事業を支援し相互協力を行うが、それぞれ目的とする公益内容が異なるため、学会の事業内容にあえて生涯研修事業を支援することは記載しないこととした。」と説明された。

イ 委員から、「学会の事業内容に記載されている『獣医学術の国際交流』は学会組織の中でどの部分に対応するのか。」との質問に対して、酒井委員長から、「今後、学会事業の中で国際交流に関する対応等を行う必要がある場合には、その都度、委員会等を設置して検討・対応してはどうか。」と提案された。

ウ 大森専務理事から、「中国地区等では、本年度の地区学会から名称等についても新たな学会組織への対応が行われており、その他の地区でも順次対応が進められているところである。いずれにしても地区学会の名称や学会組織の変更を行うには相当の準備が必要と考えられ、いきなりの切り替えは混乱を招くこととなる。したがって、本年度から来年度を移行期間とし、現時点で対応可能な部分については徐々に進めていくことが望ましい。」と説明された。

エ 委員から、「今後の日本獣医師会学会組織は、『学会幹事会議 → 学術分野別学会 → 学会正副会長会議』となっているが、“学会幹事会議”と“学術分野別学会”の順序を逆にして、『学術分野別学会 → 学会幹事会議 → 学会正副会長会議』のようにピラミッド型の組織構成とした方が良いのではないか。」との意見が出された。

オ 委員から、「学会幹事会議を学術分野別に分けずに、現在の合同理事会のような位置付けとなっているが、学会幹事会議は各学術分野をひとまとめにせず、それぞれ学術分野別に学会幹事会議を設置した方が良いのではないか。」との意見が出された。

カ 大森専務理事から、「当初案としては一括した学会幹事会議としており、これは、現状の学会合同理事会をイメージしたものであるが、これを細分化するかどうかについては運営状況を見た上で対処することも可能である。」との意見が出された。

(2) 次に、事務局から、日本獣医師会定款施行細則の改正点について説明した後、「日本獣医師会学会運営規程（案）」及び「獣医学術地区学会運営規程（案）」について提案が行われ、以下のとおり意見交換等が行われた。

ア 委員から、「学会幹事の構成は、現在の学会理事のように獣医学系大学の協力は求めないのか。」との質問に対して、酒井委員長から、「これまでどおり獣医系大学の協力は必要不可欠であるが、学会幹事の推薦については獣医学系大学以外にも関係する試験研究機関や学会・学術団体等、広範囲な分野に依頼することも今後は必要となるのではないか。」と説明された。

イ 委員から、「新たな学会運営規程による学会幹事等役員の選任は、いつからになるのか。」との質問に対して、大森専務理事から、「新規程については一定の経過措置をおいた上で、来年度早々に手続きを取って施行することとなる。したがって、新規程による役員の選任等は現在の学会役員の任期が再来年（平成24年）の3月までなので、次回の改選からとなるのではないか。」と説明された。

ウ 委員から、「日本獣医師会会長の略称について、日本獣医師会学会運営規程(案)の中では『会長』とし、獣医学術地区学会運営規程(案)では『日獣会長』となっているので、統一した方がわかりやすいのではないか。」との指摘があり、修正することとされた。

(3) 続いて、日本獣医師会獣医学術賞関連規程等の改正案について事務局から説明が行われ、以下のとおり意見交換等が行われた。

ア 委員から、「獣医学術功労賞候補者の推薦は、これまで学会役員や地方獣医師会長等に限定してきたが、今後は公益認定の関係から広く誰でも推薦できるようにするのか。」との質問に対し、酒井委員長から、「募集要領等により推薦者の要件を別途定めることを考えている。」と説明された。

イ 委員から、「獣医学術功労賞推薦のための別紙様式については、①「推薦業績の推薦者」は「推薦者」に、②「被推薦者」は「候補者」にそれぞれ修正することが適切ではないか。」との指摘があり、修正することとされた。

(4) 事務局から、日本獣医師会学会学術誌の編集等に係る関係規程の整備について資料を元に説明が行われ、以下のとおり意見交換等が行われた。

ア 委員から、「日本獣医師会雑誌（日獣会誌）は多くの獣医系大学等で学位論文審査対象学術誌として認められており、各学会の学術誌として別個に名称を付ける必要はないのではないか。日本獣医師会雑誌の中に学術分野の関連部門別に整理して掲載すれば良いのではないか。」との意見が出された。

イ 委員から、「日本獣医師会雑誌の学会学術誌部分をひとまとめにした場合、日本獣医師会獣医学術賞『獣医学術奨励賞』の候補業績をどのように選考すれば良いか。」との質問があり、酒井委員長から、「学会学術誌部分をひとまとめにしても、掲載論文は学術分野の部門別に区分してそれぞれの部門の候補業績とすれば良いのではないか。」と説明された。

ウ 委員から、「将来的に日本獣医師会雑誌への学術論文の投稿等についても、インターネットを利用した募集を行うことを考えているのか。」との質問に対し、酒井委員長から、「インターネットを利用した募集を行うかどうかについては、今後必要に応じて検討していく。」と説明された。

エ 委員から、「日本獣医師会雑誌は、和文の学術誌として国内に定着しているが、欧文にする考えはあるか。」との質問に対して、酒井委員長から、「日本獣医師会雑誌の読者とその役割を考えると、今後も和文の学術誌として、その使命を優先させることが大切と考える。」と説明された。

オ 委員から、「わが国獣医関係者の間では、日本獣医師会雑誌は和文の学術誌、日本獣医学会会誌は欧文の学術誌として広く認識されているが、日本獣医師会雑誌については投稿原稿の制限枚数が少ないため、刷り上り頁数でオーバーページになり、著者負担を求められるケースが多いので、投稿規程等に定める掲載区分ごとの投稿原稿枚数を見直してほしい。」との意見が出され、酒井委員長から、「本件は編集委員会委員の作業量や刊行費の予算とも関係するため、来年2月に岐阜で開催予定の獣医学術学会誌編集委員会において検討したい。」と説明された。

VI まとめ

最後に、酒井委員長から、「本委員会において、①日本獣医師会学会運営規程（案）、獣医学術地区学会運営規程（案）等を含めた今後における獣医学術学会事業等の運営については、本日説明した内容で進めることとする。②日本獣医師会学会学術誌の編集等に係る関係規程の整備関係については、委員会の意見としては分野別学会の学会誌とすることはやめ、あくまでも日本獣医師会雑誌の中の学術部分として、学会等の学術分野の関連する部門別に内容を整理して掲載する方向で、これを来年2月に岐阜で行われる獣医学術学会誌編集委員会において確認・検討を行うこととする。③日本獣医師会獣医学術賞関連規程等の改正案については指摘事項を修正し、その他は原案通り進めることとする。なお、④獣医学術地区学会の運営等に関する各種報告様式等については事務局に一任することとしたい。」として取りまとめが行われた。